



# 林 声



OKAYAMA

お か や ま

No.347 . 1999 . 9 . 1



真鍋島のホルトノキ（笠岡市）

## 目 次

林業改善資金の活用について ...	2	“樹” .....	6
普及最新情報 .....	3	普及指導区の紹介 .....	7
シリーズ地域の銘木 .....	4	お知らせ .....	8 ~ 9
普及指導最前線 .....	5	林産物市況等 .....	10

# 事業の紹介 林業改善資金の活用について

## 一 制度の概要

林業に従事している個人・団体・会社が、生産効率の向上や労働環境の改善を図るために、新しい技術や機械・設備等を導入するとき、また、新しい事業を始めるときに利用することができます無利子の資金制度です。

## 二 主な貸付対象機械・設備

(一) 内は貸付限度額と償還期間)

- ・ 林内作業用トラクタ (七八〇万円 五年以内)
- ・ クレーン付作業車 (八三〇万円 五年以内)
- ・ きのご生産用機械・施設 (六〇〇万円 五年以内)
- ・ 高能率素材生産用機械 (購入費の八割 五年以内)
- ・ 作業道開設用機械 (九〇〇万円 五年以内)
- ・ ラジコンウインチ (四〇万円 五年以内)
- ・ パーカ、ツイン丸のご盤 (一、二〇〇万円 一〇年以

内)

- ・ 防振装置付チェーンソー (二五万円 五年以内)
- ・ 自動枝打機 (六六〇万円 五年以内)
- ・ 暖房装置付人員輸送用自動車 (三〇〇万円 七年以内)

## 三 返済方法

貸付けの翌年度から償還期間

内の均等年賦支払い

## 四 貸付時期

七月、九月、十一月、一月、

三月の各五日付(森林組合等を經由して、借受者が開設した本資金専用口座に振り込みます。)

## 五 申込時期

貸付時期の約二ヶ月前(森林組合、市町村または地方振興局森林課に申請書と事業計画書を提出します。)

## 六 利用時の留意事項

### (一) 保証人及び担保

本資金の借受者は、借入額に応じて保証人または担保を設定

する必要があります。

## (二) 事業の着工

事業の着工は、本資金の交付を受けた後となります。

## (三) 値引き及び下取り

機械・設備等の購入の際、実際に支払う費用が貸付けの対象金額となるので、購入物に値引きがある場合は、値引き後の金額が対象金額となります。

また、下取り機械等の価格が明確な場合は、自己資金扱いとなりますが、不明確な場合は値引きとみなします。

## (四) 機械・設備等の処分

償還期間中は、本資金で購入した機械・設備等を無断で処分することはできません。

## (五) 目的外使用

償還期間中は、本資金で購入した機械・設備等を目的外に使用することはできません。

## (六) 違約金及び違反金

本資金は無利子ですが、償還金を遅延した場合は、延滞金額に対し違約金を支払う必要があります。

また、貸付金や機械・設備等

の目的外使用、無断処分等を理由として期限前償還の請求を受けた場合は、当請求に係る償還金に対し違反金を支払う必要があります。

## 七 問合せ先

貸付対象となる機械・設備等や事業が、この他にもあります。本資金の利用を検討されている方や詳細をお知りになりたい方は、最寄りの森林組合、市町村、地方振興局森林課または県庁林政課林業振興係へお問い合わせください。



# シリーズ地域の銘木 3

「真鍋島のホルトノキ」は、笠岡市の沖、十九キロメートルに位置する真鍋島にあります。

真鍋島の旧家である真鍋家の中庭にあるこのホルトノキは、推定樹齢二五〇年。目通し周囲二・四メートル、樹高十五メートル。熱帯・亜熱帯性の常緑高木で、一見するとヤマモモに似ていますが、ヤマモモの葉よりも厚く、鈍鋸歯であり、古くなった葉は赤く色づいて落ちます。夏に白い小さな花を群生させ、果実は黒青色で甘酸味があり、鳥達の餌になっています。昔は子供達も喜んで食べたということです。

ホルトという名前は、オリブの昔の呼び方であり、ホルトガル人が日本に伝えたことによるといわれています。果実がオリブに似ていることから、誰かが誤って「ホルトノキ」と唱えたのだらうということです。この木がなぜこの地に伝わったのでしょうか。真鍋氏によると二説があり、一説は、平賀源内の師が伊豆半島で発見し、宝暦年間（一七五〇―一七六三年）に全国物産展へ出品後、源内が

苗木を譲り受け、故郷領主松平公へ献上したということです。

その後、丸亀藩主へ伝わり、丸亀の大庄屋を通して真鍋家に伝わったというものです。またもう一つの説は、宝暦二年（一七五二年）に真鍋家が本家から分家した当時に、庭に自生していたというものです。

真鍋島は、昭和五三年五月に古い漁村形態を今に伝える島として、全島が県のふるさと村に指定されています。

その昔、平家の武士真鍋氏が本拠とした島で、島内東部にある城山は、平家物語巻九「二度のかけ矢」に語られている真鍋四郎祐久の築いた城跡として伝えられています。

また、西行法師の「山家集」には、「真那辺より塩飽へ通ふ証人はつみをかいにて渡るなりけり」と歌われています。この一首は、一一六八年に讃岐からの帰途この島でつくられたもので、平安末期の島の様子がしのばれます。

島内では温暖な気候を利用して、昭和二〇年代の半ば頃から

花づくりが始められ、特に寒菊栽培が盛んに行われてきました。島内西部にある「ふれあいパーク」では、四季折々の花が楽しめます。

秋に「走りみこし」といって、三体のみこしをそれぞれ八人の若者が担いで島内及び海岸線を走り、早さを競う勇壮な祭りや、大晦日に「まな板たたき」といって、まな板に乗せたお頭つきの魚を、太夫の家の太鼓を合図に各家で包丁の背で魚をたたきながら「オメデトウ」と叫ぶ、ユニークな行事もあります。

春には潮干狩り、夏には海水浴、秋から冬には菊の花畑が楽しめます。のんびりと船の旅を試みませんか。

## 交通の便

笠岡駅から徒歩七分の笠岡港三洋汽船乗り場から、定期便で在来船八五分、高速船四五分。



まなへ島観光案内図



（井笠普及指導区 Ag 石原美代子）

## 普及指導最前線

### 阿新地区林研グループ 交換研修大会の開催について

#### 一 はじめに

阿新普及指導区には、林研グループが一三グループあり阿新地区林研グループ協議会（会長 真壁覚 事務局：阿新局森林課）が組織されています。当協議会の主催により毎年各市町持ち回りで林研グループ交換研修大会を開催しており、本年は哲多町の町民センターを会場に開催しました。

林研グループ員、市町・森林組合の担当職員、林業改良指導員等六十数名の参加がありました。それでは、その内容について紹介します。

#### 二 内 容

従来の交換研修大会では、優良造林地や優良ホダ場の視察研修の後、討議、討議結果の発表を行っていたが、本年は新しい試みとしてシンポジウムを開催しました。

最初に新郷町林業振興会の松

田利亮さんが「これからの阿新地域の森林・林業の進む方向」と題して基調講演を行い、「大型機械を導入するなど間伐を進めて山の活性化を目指してほしい」などと訴えました。

次に、森林国フィンランドの高性能林業機械を活用した伐出現場や県内の高性能林業機械の導入業者のビデオを見たあと、真壁会長、松田さん、真庭郡美甘村で林業を営んでいる向井林業の向井王則さん、哲西町森林組合参事の小田功さんの四名がパネラーに、林業改良指導員がコーディネーターになってパネルディスカッションを行いました。「間伐が遅れている。」という指摘や「間伐はしなければならぬが経費がかかる。木材価格が低迷して苦勞している。」という悩みや「これから低コスト化の徹底や優良材生産を目指すべきである。」「今

は径級の太い木は使い道がなく安い。柱口が一番値が良いので間伐の際は柱口になる木を選木すべきである。」などという意見が出ていました。

#### 三 おわりに

「林業の機械化は低コスト化を図るには欠かせないものです。また、機械化を進めるには道路が必要であり、行政も補助できるものはしていきたいと考えています。道路をつけるには所有形態が小規模の場合は、地域で集団化し、間伐を推進するためには列状間伐にも取り組んでいく必要があります。大型機械を使う人がまだ少ないので今後、育てていく必要があります。みなさんと知恵を絞って阿新をより良い地域にしていきたいと思えます。」と助言者で出席していた阿新局森林課長からの話があり、パネルディスカッションを終了しました。

参加者からの要望が非常に強いので、来年度以降も引き続きシンポジウムを開催していきたいと思えます。

（阿新普及指導区 Ag 近藤和夫）



秋になりました。キノコ狩りにはまだ気が早いですが、うずうずしている方もいるのではないのでしょうか。

皆さんご承知のように、キノコは菌の子実体です。菌の中には、生きた木に寄生するものや、枯損木を分解するものがあります。マツタケは前者で、シイタケは後者です。シイタケの廃ぼだ木はぼろぼろで、まさに食い尽くされた残骸です。

同じような状況を畦道の木杭などに見ることができま

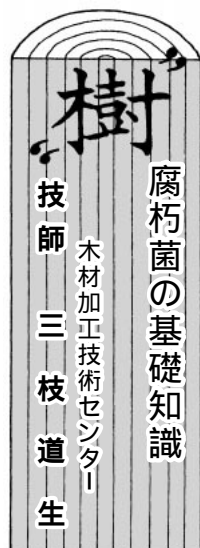
す。木材腐朽菌と呼ばれる菌類は、私たちが食べているキノコと変わらない生活をしているのですが、食べられなかったり、生えてくる場所が悪いので嫌われているのです。

木材腐朽菌はその腐朽方法によって褐色腐朽菌、白色腐朽菌、および軟腐朽菌に分けることができます。

褐色腐朽菌は針葉樹材によく

見られ、その被害材は褐色です。材を乾燥するとよく収縮し、縦横に亀裂を生じます。近年北海道で重大な被害をもたらしたナミタケや、食べる事ができるマツオオジなどがその仲間です。

白色腐朽菌は、被害材が色褪せたり、白っぽくなるのでそう呼ばれています。広葉樹材によく見られ、被害材は褐色腐朽に



比べて変形が少なく、触ると繊維状にほぐれます。シイタケはこれに入ります。褐色腐朽と白色腐朽は一般に担子菌のみにより起こるとされています。しかし、木材腐朽性の子のう菌の中には、白色腐朽と呼べるような腐朽型を示すものもあります。

軟腐朽菌は一般的に広葉樹材に発生します。被害材は黒ずんだ褐色で、乾燥すると褐色腐朽

ほどではありませんがひび割れが生じます。軟腐朽菌のほとんどは子のう菌と不完全菌です。軟腐朽は含水率が高い木材によく発生しますが、これは軟腐朽菌が高含水を好むからではなく、そのような条件下では担子菌に対して優位に立っているからです。

木材腐朽菌を含め、菌類は自然界では分解者としてなくてはならない存在です。しかし、人間が現在のように樹を材料として利用する生活をしている以上、住宅や橋など木材が腐ってはいけない場面も出てきます。では、木材腐朽菌を発生させないためにはどのようにすればよいのでしょうか。

菌類も生き物ですので、他の生物と同じように水、空気、栄養、温度など生きていくための最低限の条件をそろえる必要があります。これらの条件を一つでも断ち切られるとかれらは生活できません。

水中貯木という貯木方法があります。見た目には腐りやすそうなのですが、木材が水中にあるため空気から遮断されており、実は腐りにくくなっています。逆に乾燥した木材は水分が不足しているので菌は思うように生育できません。木材の含水率が繊維飽和点以上あれば気をつけましょう。

また、食料を摂取しないと生きていけないのは想像に難くありません。菌を栄養源である木材に近づけないようにすることを目的にしているのが、木材保存剤です。処理方法には、塗布、浸せき、注入などがあります。それぞれ手軽さや処理量、コストなどに特徴があるので場面にあつた方法を選びましょう。

最後に温度については、菌によって適温の違いがあるので、三〇度前後では概ね生育が良いようです。人間が快適ならば菌も快適なので、温度で対処しようという方には共存をお勧めします。

# 東備普及指導区の紹介

## 一 はじめに

東備普及指導区は、吉井川及び旭川の中下流部に位置し、南は日生諸島から北は八塔寺、吉井高原に至る南北約三十キロ<sup>メートル</sup>、東西約三十五キロ<sup>メートル</sup>、標高差約五百<sup>メートル</sup>に及びぶ地域です。

## 二 森林の管理

県北に比べ人工林率が低いとはいえ、管内には多種多様な森林が存在します。特に、保安林については、県下九振興局の内最も高い割合で指定されており、公益的機能に配慮した森林管理を行っています。

## 三 多面的森林利用の推進

瀬戸内海国立公園や吉井川中流県立自然公園及び現在整備を進めている「和気美しい森」等について適切な管理指導を行うとともに、これらの森林の多面的機能を利用し、都市住民等を対象とした普及活動を行っています。

## 四 森林の管理・育成

森林は管内森林面積の約五割を占めており、水源かん養等の公益的機能の他、建築用材、マツタケ生産、備前焼用の松割木生産等産業への貢献度も高いため、松くい虫予防事業や伐倒駆除等の各種施業を積極的に行っています。

## 五 地域林業の担い手育成

管内には赤坂町、吉井町、吉永町の三つの森林組合が活動していますが、経営基盤の充実及び地域林業の担い手としての役割強化を図るため、合併についての研究を進めています。

## 六 特用林産物

最近では炭の生産が見直され

てきており、当普及指導区においても様々な形で炭の生産に取り組んでいこうと考えております。ちなみに最近では、「和気美しい森」地内に二基の炭焼窯が築かれました。また、素人でもできるドラムカン式炭焼きの普及も行っています。



## 七 林業改良指導員

林業改良指導員は、各分野毎にそれぞれ次の者が配置されていますので、お気軽にご連絡ください。

指導員指名	担当等
山形 博則	地区主任
石井 哲	保安林・特産・組合
小椋 秀司	保安林・開発・林産
花田 智雄	造林・計画・普及
溝口 司	保護・機械・金融
橋本 里絵	鳥獣・公園・経営

(連絡先)

和気郡和気町和気四八七 二  
岡山県東備地方振興局森林課内  
東備林業改良指導員駐在所  
(〇八六九)九三 一一一一  
内線 二八一〜二・二八七  
(東備普及指導区Ag石井 哲)

## 東備局管内森林の現況

(単位: ha, %)

区分	全 県	東 備	備考
森林面積	484,824	47,020	7位
人工林面積	197,170	7,758	7位
人工林率	40.9	16.5	7位
保安林面積	157,409	19,872	4位
保安林率	32.5	42.3	1位

注:人工林は、森林計画対象森林のみ

資料:岡山県の森林資源他

# お知らせ

## 岡山二十一世紀森林・林業ビジョンの策定について

### 一 岡山二十一世紀森林・林業ビジョン策定計画

#### (一) ビジョン策定の背景

県土の約七割を占める森林は、木材生産のみならず、国土の保全、水資源のかん養、地球温暖化の防止など様々な公益的機能を通じて県民生活と深いかわりをもっています。

しかし、本県の林業は、山村における担い手の減少・高齢化、木材価格の低迷による収益性の悪化など様々な問題を抱えており、間伐等の森林整備が十分に行われなくなってきました。

こうした中、国においては、国有林管理経営方針を木材生産から公益的機能重視へ転換するなど、我が国の森林・林業政策は新たな方向へと展開してきており、本県にあっても、林業公

社経営改善への取組や森づくりのための「県民基金」の創設等の様々な課題を早急に検討していく必要があります。

岡山県では、こうした状況の変化に的確に対応し、長期的な展望に立って、諸課題を克服するための指針や豊かな森林を次世代に引き継ぐための道筋を提示するため、「岡山二十一世紀森林・林業ビジョン」を策定することにしました。

#### (二) ビジョンの計画期間

五〇年先(二〇五〇年)を展望した長期目標のもとに、今後一〇年間(二〇一〇年)を計画期間とします。

#### (三) ビジョン策定委員会の設置

森林・林業の将来像や政策について、専門的立場で協議・検討をしていただくため、千葉喬三岡山大学農学部教授を委員長

に、十名の学識経験者等からなる策定委員会を設置しました。

#### (四) 策定スケジュール

平成十二年三月までに、ビジョン策定委員会を五回程度開催し、平成十二年五月頃に公表を予定しています。

なお、この間「青空知事室」や関係団体との会議の開催等を通じて県民各層からの意見の聴取を行います。

#### 二 ビジョンへの「県民の意見」と「森林・林業写真」の募集

県民全体の意識を反映したビジョンとするため、県民の皆さんから広く意見を求めています。また、公表されるビジョンに掲載する森林・林業写真も公募しておりますので、多数のご意見等をお寄せください。

#### (一) 岡山二十一世紀森林・林業ビジョンへの「意見」の募集

##### テーマ

岡山の森林・林業の現況と課題、森林・林業のあるべき姿、誘導のための施策の基本方針、公共・林業関係団体や県民一般



が果たすべき役割など

募集期間

平成十一年十二月三十一日まで

(二)岡山二十一世紀森林・林業ビジョンに掲載する

「森林・林業写真」の募集

テーマ

岡山の森林、林業、県産材加工と利用、森林レクリエーションなど

募集期間

平成十二年二月二十九日まで

三 国における「森林・林業・木材産業に関する基本的課題」の検討

森林に対する国民のニーズが多様化・高度化する中、国においては、林野庁長官の私的諮問機関として森林・林業・木材産業基本政策検討会が設置され、我が国の森林・林業・木材産業に関する基本的課題の検討が行われておりましたが、この七月に検討会報告が公表されました。

この報告では、今後の林政の基本的な考え方について、木材生産を主体としたものから、森

林の多様な機能を持続的に発揮させていくための森林の管理・経営を重視したものに転換すべきとの認識の下に、多様な機能の発揮のための森林整備の推進、将来にわたり安定した森林の管理・経営システムの構築、森林資源の循環利用推進、山村地域等の活性化、地域の主体的取組の推進の5つの視点から検討が行われ、次のとおり基本課題が整理されています。

多様な機能の発揮に向けた森林整備  
森林の管理・経営を担う林業の育成  
循環型社会の形成に寄与する木材産業の体質強化  
森林・林業・木材産業を通じた総合的・重点的な施策の展開  
国有林野事業改革の着実な推進  
山村の振興等  
森林・林業分野における国際貢献  
政策の展開方向に対応し

た試験研究・技術開発等の重点的推進  
林業基本法等、法制度のあり方について検討

林野庁では、今回示された課題について、今後、広く国民の意見を聴きながら、さらに検討を行うこととなっております。

国へのご意見等についても、岡山二十一世紀森林・林業ビジョンと同じ岡山県庁の窓口で受け付けておりますので、「国への意見」と明記の上、積極的なご

県へご提案をお願いします。

意見・写真のあて先

郵送

〒七〇〇 八五七〇

岡山市内山下二 四 六

岡山県農林水産部林政課

電子メール

rinsei@pref.okayama.jp

# 林 産 物 市 況

## 製 材 (8月下旬)

杉 正 角 3m			桧 正 角 3m			桧 長 柱 6m		
寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸 法	等級	安値 - 高値 (千円)
6.0	一等	30 - 35	6.0	一等	45 - 50	10.5	特等	80 - 85
7.5	一等	20 - 22	7.5	一等	33 - 35	12.0	特等	115 - 120
9.0	上一	18 - 20	9.0	上一	20 - 22	"	上小	130 - 140
"	一等	22 - 24	"	一等	27 - 30	13.5	特等	90 - 95
10.5	一等	35 - 40	10.5	一等	60 - 65	"	上小	100 - 120
"	特等	40 - 45	"	特等	70 - 75	ラ ス 板		
"	上小	55 - 60	"	上小	110 - 150	2 <sup>m</sup> 1.2× 9.0		20 - 23
"	無節	70 - 90	"	無節	180 - 200	3 <sup>m</sup> 1.2× 9.0		23 - 25
12.0	特等	35 - 40	12.0	特等	75 - 77	2 <sup>m</sup> 1.5× 10.5		25 - 30
"	上小	50 - 60	"	上小	110 - 150	2 <sup>m</sup> 0.9× 24.0		65 - 70
"	無節	60 - 70	"	無節	180 - 200	2 <sup>m</sup> 1.5× 21.0		33 - 37
長 サ 4m			長 サ 4m			造 作 材		
6.0	一等	35 - 40	6.0	一等	53 - 58	杉 <sup>4m</sup> 3.0× 3.0	無節	(本) 6 - 8
9.0	上一	22 - 23	9.0	上一	30 - 35	杉 <sup>4m</sup> 4.0× 4.5	無節	(本) 12 - 20
"	一等	30 - 35	"	一等	45 - 48	杉 <sup>4m</sup> 4.5× 10.5	無節	180 - 200
10.5	特等	40 - 45	10.5	特等	70 - 75	桧 <sup>4m</sup> 4.5× 10.5	上小	150 - 200
12.0	特等	40 - 42	12.0	特等	70 - 75	桧 <sup>4m</sup> 4.5× 10.5	無節	250 - 300

## 木 材 (8月中旬)

長さ	径 (cm)	杉 (千円)	桧 (千円)	松 (千円)
3m	7 - 12	8	16	-
	13	16	32	-
	14 - 16	24	39	-
	18上	20	37	15
4m	7 - 12	10	20	-
	11 - 13	-	-	-
	14 - 16	-	38	-
6m	18上	17	35	25
	14 - 16	-	59	-
	18 - 20	-	48	-

## 乾しいたけ (7月下旬)

名柄別	価格	
	平均	高 値
香 信 大 葉	55	80
" 中 葉	38	80
" 小 葉	27	48
バ レ 大 葉	29	51
" 中 葉	19	42
ス ラ イ ス	17	33
香 茹	51	80
上 冬 茹	51	85
並 "	45	77
並 並 "	25	57
小 玉 "	18	40
格 外 品	-	-

### 編集後記

九月になり、朝夕は随分涼しくなりました。八月二〇日、三光荘において林業改良指導員の研修大会が開催されました。今年度は「新世紀を拓く普及」をテーマにシンポジウムが行われました。普及活動で重要なことは、「地道な普及活動」はもちろんですが、「PRの上手な普及活動」も積極的に取り組む必要があると思われれます。次回は、十一月の発行予定です。(B)